

光が丘周辺地域小・中学校の 学習環境のあり方検討協議会

ニュース

平成 31 年 2 月発行
光が丘周辺地域小・中学校の
学習環境のあり方検討協議会

第 2 号

第 3 回検討協議会で話し合ったこと（1 月 25 日開催）

第 3 回検討協議会では、光が丘周辺地域の小・中学校の現状と課題について、前回行ったグループワークでの意見を取りまとめ、委員の選出母体で集約した新たな意見の発表を行いました。

これらの意見を踏まえ、議論を進める上で大切なことを 9 つの項目に論点として整理し、今回は「望ましい学校規模（小学校のクラス数）」について、検討（グループワーク）を行いました。

各団体からの意見

- ・ 地区子ども会育成連絡協議会、公民館の青少年部などの子どもに携わる人の意見も聴く必要があると思う。
- ・ 村富線を渡るということが、通学の安全を考えた上で不安。
- ・ 1 つの小学校から、少しでも多い友達と同じ中学校に行くことが望ましい。
- ・ 地域の小・中学校を結ぶという意味では、公民館の青少年部事業は大変役に立っている。

議論する際に大切なこと（論点整理）

望ましい学校規模
小中一貫教育の実施
通学環境（学区）
学校施設、学校給食について
放課後や土日、休日の子どもの居場所について
子どもの見守りや子育て支援の担い手について
公民館事業等について
地域行事について
災害時取組について



お知らせ

「光が丘周辺地域小・中学校の学習環境のあり方検討協議会ニュース」は、光が丘小学校、並木小学校、陽光台小学校、青葉小学校、緑が丘中学校の保護者の方に配付し、光が丘地域の自治会に回覧しています。

検討協議会の結果概要と資料は、市の行政資料コーナー、光が丘公民館、陽光台公民館、光が丘小学校、並木小学校、陽光台小学校、青葉小学校、緑が丘中学校でご覧いただけます。

望ましい学校規模（小学校のクラス数）について

現状と今後予測される学級数に対する意見 【1～2学級】

良いと感じることなど

- ・1クラス少人数だと先生の目が行きわたるし、クラス替えがあっても、大体知っている子が居てくれるので、進級しても不安が少ない。
- ・子どもが少ない方が、保護者、先生、子どもが皆で問題解決について話し合える。
- ・活動の機会が増える。
- ・タテの学年交流が図れる。

不安に感じることなど

- ・子ども達の交友関係が狭くなりすぎてしまう。いじめ等があった時、逃げ場がない。
- ・人数が少ないので、行事やスポーツ等、集団的教育活動に制約が生じる。
- ・現状を変更するのは、保護者には不安。
- ・多様な考えに触れる機会が少ない。

市基本方針に基づく望ましい学校規模に対する意見 【3～4学級】

期待することなど

- ・3、4学級あると色々な人達と交流ができ、特定の子だけとの交流にならなくて良いのではないかと。
- ・競争が活発になる可能性が高い（学力、運動など）。
- ・行事が盛ん。大がかりな事ができる。
- ・集団活動がしやすい。多様な学習形態がとりやすい。

不安に思うことなど

- ・先生の目が行きわたるのか。
- ・教室、特別教室等の確保ができないのではないかと。
- ・グラウンドの広さが心配。
- ・1人ひとりの活動(活躍)の機会が減る。

その他

- ・(全体として)クラス数の議論は結論の出ない議論。
- ・地域により人数が異なるので、学校規模は気にしなくてもよい。
- ・2クラスに分けるか3クラスに分かれるかで指導方法も変わってくる。

次回の予定について

次回の第4回では、「学区」と「小中一貫教育」の内容について、検討(グループワーク)を行います。

来年度以降で、第2～4回のグループワークでの意見を踏まえ、光が丘地域の子ども達にとって、望ましい学習環境について、具体的に検討を進めていきます。

第4回検討協議会

平成31年3月14日(木)午後7時～
光が丘公民館 大会議室

事務局(お問合せ先)

相模原市教育委員会 教育局 教育環境部 学務課
電話 042-769-8282(直通)